

2012年7月8日(日)

日本農業市場学会2012年度大会 個別報告  
第5会場(309号室) 第3報告(10:00~10:30)



# 卸売市場再編下における地方都市中央卸売市場 による産地振興の意義と展開方向 —久留米市中央卸売市場を事例に—

- 岩崎真之介(広島大学 大学院生物圏科学研究科)
- 細野 賢治(広島大学 大学院生物圏科学研究科)
- 山尾 政博(広島大学 大学院生物圏科学研究科)

# 報告の構成

1. 研究の背景と目的・課題
2. 久留米市の農業構造と久留米市中央卸売市場の性格
3. 特産品開発による産地振興
4. PB(プライベート・ブランド)と産地市場的機能強化
5. 考察

# 1. 研究の背景と目的・課題



写真 久留米市中央卸売市場におけるセリの様子

## 1. 背景と目的・課題

# 1) 背景①—2010年以降の卸売市場再編の動向—

### ■ 農水産物生産基盤の脆弱化

- 従来型の農協共販における農家の共販離れ  
⇒大産地農協の出荷先の集約化(絞り込み)

### ■ 大型小売資本による流通構造再編




### ■ 第9次卸売市場整備基本方針(2010年)

- 大規模卸売市場と中小規模卸売市場との間で機能・役割分担  
⇒効率的な流通ネットワークを構築
- 一部の大規模中央卸売市場を, 大型産地からの荷を大量に受け、周辺の中規模の中央卸売市場と連携した流通を行う「**中央拠点市場**」と位置づけ
- 一定の基準に満たない中央卸売市場  
⇒統合、地方市場への転換等の再編に取り組むことを求めている

## 1. 背景と目的・課題

# 1) 背景②—2010年以降の卸売市場再編の動向—

### ■ 卸売市場再編下の地方都市中央卸売市場が直面する問題点

- 一部の地場産物を除いて、中央拠点市場からの転送への依存がさらに強まる
    - ⇒卸売業者の**収益性悪化**の懸念
    - ⇒中央卸売市場の**階層分解**が進む可能性
  - **周辺地場産地の位置づけが低下**する懸念(矢野[1])
  - 地方市場への転換はメリットもあるが、**信用が低下**し集荷力が下がる可能性
- 
- 地方都市の中央卸売市場が、今後どのように存在意義を示すかが問われている

## 1. 背景と目的・課題

# 2) 目的・課題と調査方法

### ■ 目的

- 地方都市中央卸売市場の展開の一方向性として、地場産地振興の取組の意義と課題を検討

### ■ 課題

- 地場産地密着により生き残りを図る久留米市中央卸売市場の青果物卸売業者「久留米青果株式会社」を事例に、
  - ①久留米市の農業構造と久留米青果の性格【2】
  - ②特産品開発、PB(プライベート・ブランド)の展開と生産・販売構造【3、4】
  - ③地方都市中央卸売市場による地場産地振興の意義と展開方向【5】を検討

### ■ 調査時期

- 2012年5月～7月

### ■ 調査方法

- 久留米青果への聞き取り
- 久留米青果の個人出荷者への聞き取り



## 2. 久留米市の農業構造と

# 久留米市中央卸売市場の性格



写真 久留米青果の「今朝採り野菜」





2. 久留米市の農業構造と久留米市中央卸売市場の性格

## 2) 久留米市の農業構造の動向①

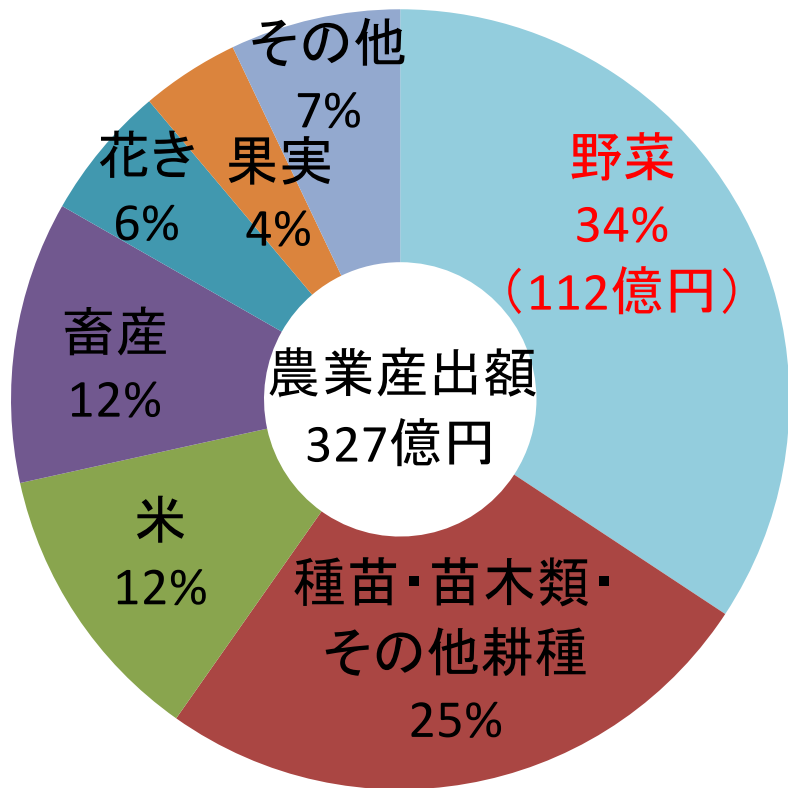


図 久留米市の農業産出額の構成 (2006年)

資料:『平成18年 生産農業所得統計』

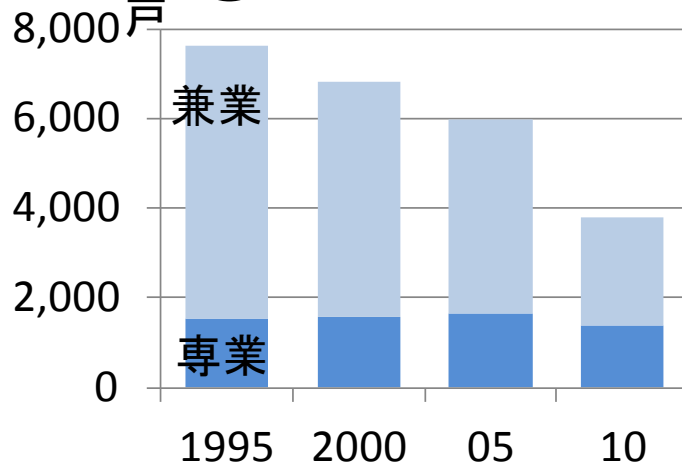


図 久留米市の専兼別農家戸数の推移  
資料:『農林業センサス』(各年)

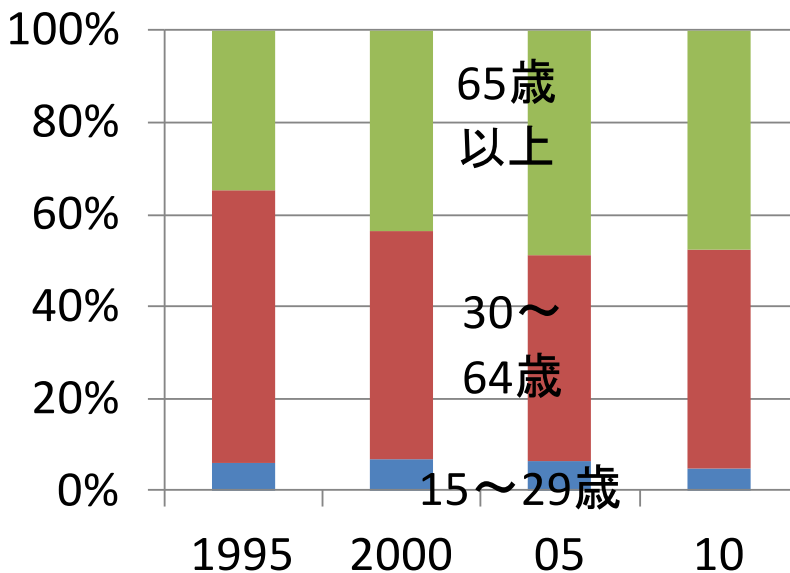
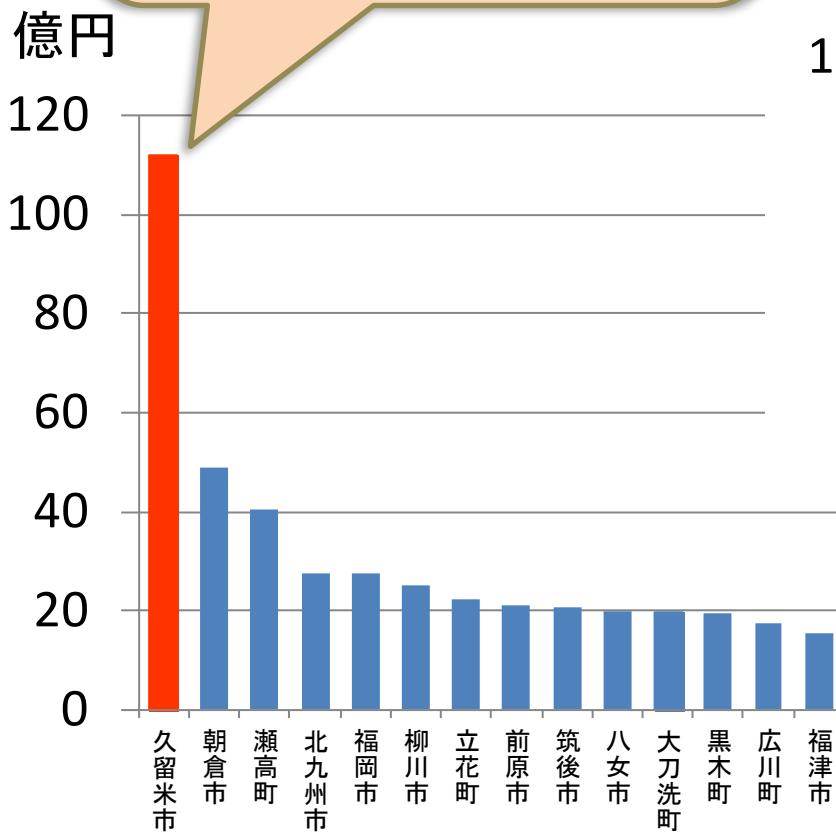


図 久留米市の年齢別農業就業人口構成の推移  
資料:『農林業センサス』(各年)

2. 久留米市の農業構造と久留米市中央卸売市場の性格

## 2) 久留米市の農業構造の動向②

久留米市の野菜  
産出額は県内1位  
(福岡県は全国11位)



面積: 10ha, 産出額: 億円

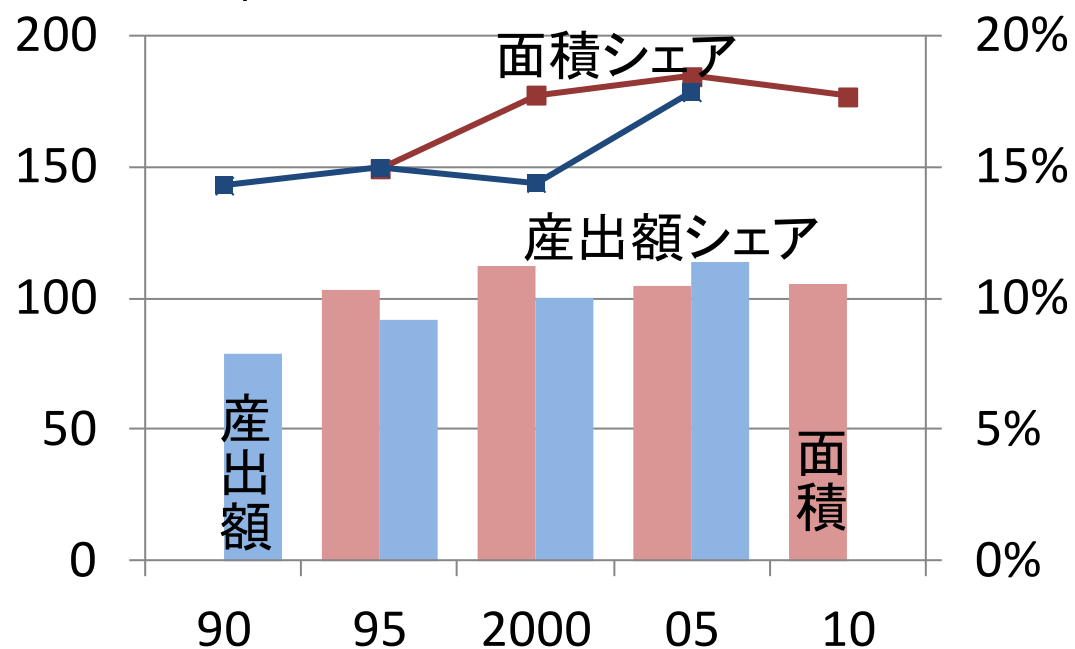


図 久留米市の野菜作付面積・産出額とその全国におけるシェアの推移

資料:『農林業センサス』、『生産農業所得統計』(各年)

図 上位30市町村の野菜産出額(2006年) 資料:『平成18年 生産農業所得統計』

## 2. 久留米市の農業構造と久留米市中央卸売市場の性格

### 3) 久留米市中央卸売市場の性格①

- 開設者である久留米市は、中央卸売市場を維持する方針
- 福岡県には3つの中央卸売市場
- 久留米市場は他の2市場に比べ取扱量が少ない

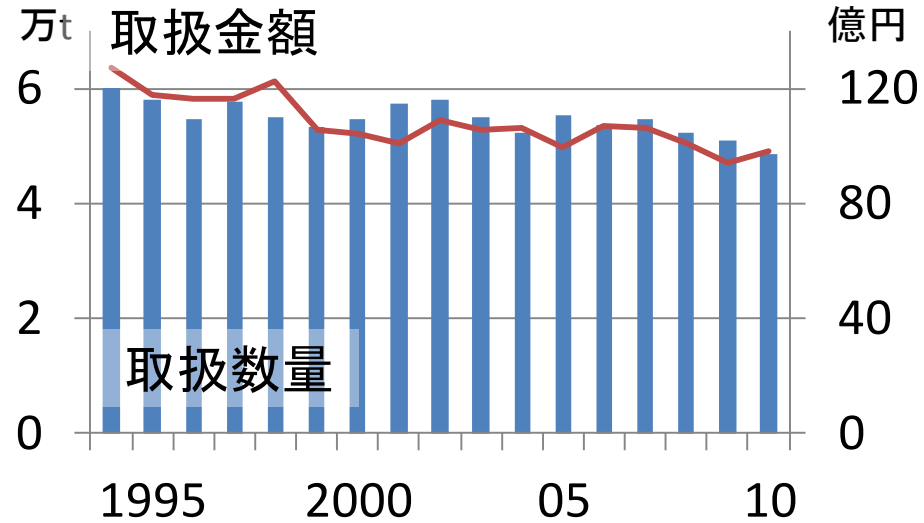


図 久留米市中央卸売市場の青果物取扱の推移  
資料: 久留米市中央卸売市場資料 注) 金額は名目値

#### 青果物の取扱数量(2010年度)

- ・福岡市中央卸売市場(中央拠点市場)は約29万t
- ・北九州市中央卸売市場は約15万t
- ・久留米市中央市場は約5万t

## 2. 久留米市の農業構造と久留米市中央卸売市場の性格

### 3) 久留米市中央卸売市場の性格②

#### ■ 久留米青果の青果物集荷構造

- 野菜の産地別シェア：九州70%、うち福岡県27%、うち久留米市15%
- 個人出荷者が約4割を占める（農協共販品は2割程度）

→ 周辺の **高齢・小規模個人出荷者の重要な受け皿**

- 農協共販品が減少し、転送荷が増加

→ 今後この傾向が強まると思われる

周辺には複数の野菜大産地JA

→ 広域出荷を指向（岩崎ほか[2]）

#### ■ 久留米青果の青果物分荷構造

- 仲卸68%（県内スーパーへの販売が多い）、売買参加者22%、  
転送その他10%



久留米青果は、県内と近隣県の個人出荷者から荷物を集め、主に県内のスーパーや専門小売店に販売

⇒ **青果物大産地に立地しているが、地域流通の拠点的性格が強い**  
(産地市場的性格は薄い)



## 4) 久留米青果の戦略とその目的

### ■ 久留米青果の基本戦略

- ① 周辺の小規模・高齢農家の生産振興：特産品開発
- ② 地元における地場農産物の消費拡大：今朝採り野菜（細野[3]）
- ③ 地元の商品を消費地に売り込む：PBと産地市場的機能の強化  
→ 産地に立地している強みを生かした先進的な取組



- 中央拠点市場構想のなかで、独自の位置を獲得することが目的